婦人と新社會

山田わか主筆

四月號

比翼の鳥

女尊男卑を根本から覆す

米國男子の發明が友愛結婚

哲學者の結婚觀

舜一郎君の靈へ

二十三年丹誠して

—編輯の後—

昭和五年四月一日發行　第百貳拾一號　毎月一回一日發行

東京市　婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

比翼の鳥

「比翼と申す鳥は身は一ツにて頭二ツあり、二ツの口より入る物一身を養ふ。夫と妻とは是の如し。」と日蓮は云ひました。

現代の青年男女は、「何んだそんな古い人間の云つたことなど」と一笑に附してしまふでせうが、併し、個人主義のこりかたまりになつて自分だけの快樂を求めることに腐心してゐながら、併し、腹の底では此の比翼の鳥のような本當に夫婦相和した生活を希望してゐるでせう。

善い結果を希望して、併し、その結果を得るに付ての犧牲を拂ひたくないと云ふのが所謂現代人の特色であるようです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女尊男卑を根本から覆す
米國男子の發明が友愛結婚
（中央公論社主催時事講堂にての講演）

私は或る既成宗教に頼つてゐる所謂宗教家でもなければ、又、舊い道德律に自分を縛らせて置く所謂道德家でもありません。

けれども、人間の力は小さいもの、人間はどんなにお利口になつた處が大自然の命令にそむくことは出來ない。大自然の法則及び其の命令にそむくことは天に向つて唾を吐くようなものだ。其の唾は結局自分の顔にかゝるものだと私は信じてゐるものです。

こう云ふ頭で、この頃米國から這入つて來た所謂友愛結婚法なるものを見ます時に、年から年中女の勢力と虛榮と强慾に苦しめられてゐる米國の男が其の知慧をしぼつて發明しそうなことだと私はつく〴〵考へました。

私が申上げるまでもなく、友愛結婚の骨子は避妊であります。子供が出來てゐたのではお互ひに

嫌やになつて別れようとする時に別れるのがめんどうになるから子供は生まないことにしようとするのです。そして、別れる時には慰籍料は無しにしよう。それから、もう一ツの條件は、結婚しても妻の生活費に對して夫は責任を持たない。妻は妻の親から生活費を貰ふなり、又は、職業に從事して生活費を稼ぐなりせよと云ふのです。

○

活動寫眞で皆様おなじみのチヤプリンが妻のネグリとか云ふ女から離婚の訴訟を起されて、彼の巨萬の富の半分を請求されて、青息といきでゐると聞いた時に、私は『米國男子の苦惱を一人で背負つてゐるチヤプリン』と云つて置きましたが、實に、米國には慰籍料目當ての結婚が隨分行はれてゐます『隨分嫌やな男だが、併し、大金持ちであるから、一旦、めんどうくさい結婚式を我慢しさへすれば、後は何とでも先方に難くせつけて離婚の訴訟を起せば彼の大金の半分はこつちのものこんなぼろい金儲けは外にはない』と云ふような不心得者が米國には少なくないのです。ですから慰籍料を出さずに離婚が出來れば、米國の男は本當に助かります。

又、結婚生活を無事に續けてゐるとしても、虚榮の權化であるかのような妻の生活費を稼ぎ出す

ために米國の男は隨分苦しんでゐます。妻のお化粧費及び交際費に追ひ廻はされてゐるのが米國の男だと云ふ言葉さへ出來てゐる程です。ですから、結婚しても妻の生活費に對して責任がないと規定することも米國の男のためには非常に好都合です。

友愛結婚の妻は自分の生活費は自分で稼がなければならない。この點からでも姙娠分娩及び育兒は困ることです。そこで、やはり避姙と云ふことが絕對に必要です。つまり妻から性慾の滿足は得るが併し妻の生活に對する責任は負はないと云ふのですから、妻を唯自分の性慾の道具と考へてゐる男にとつてはまことに便利な方法であります。

○

常に、女に苦しめられてゐる米國の男が其の苦しみから免がれようとしていろ〳〵工夫をこらすそれを米國の女がどう云ふ風に取扱ふかは、其れは米國の婦人に任せて置いて差支へありませんが併し、米國の事情とは全く異つた事情の下に男女の關係が結ばれてゐる我が國に此の友愛結婚法を其のまゝ移し植へようとする時に、これは由々しき大事であります。

避姙を骨子とすると云ふことだけでも、此の友愛結婚は斷じて排斥すべきものであります。現代

人は人智は素晴らしいと誇つて居りますけれども、併し、大自然の力に比べて見れば、それは〱まことに小さなもので、まだ〱完全な避姙法は發見されてゐないと云ふことは幾人も〱の眞面目な醫學者が發表してゐる處です。

完全な避姙法が無い以上、不完全な避姙法を使用する結果は女性の肉體は害される。微妙な働きをもつて生きてゐる、しかも、非常に柔い粘膜の中へ金屬性のものを挿入して置くなどは、それは避姙ではなくて、姙娠不能とするものだ、つまり病體にしてしまうことだと私の友人の醫者は申ます。

病氣になれば、もう男のための役には立たないから、友愛結婚の妻は勿論捨てられます。最初は花のつぼみのような生氣はつらつとしてゐた若い娘が病氣にされて捨てられる。次に又外の花のつぼみのような娘が其の男と友愛結婚をして、病氣になつて、又捨てられる。さうして、一人の男に幾人もの若い娘が次ぎ〱に病氣になつて捨てられて行きます。

女を唯男の性慾の道具と見てゐるような下等な男のためには誠に好都合な結婚法であります。

○

妻の生活費に對する責任は夫が持つべきだと私が申ますと、若いお利口な方達は「それでは妻は昔ながらの奴隷の生活ではないか」と云ひます。けれども、それは、家庭婦人の本當の意義を知らないから、さう云ふのです。私は、家庭婦人卽ち妻であり母である婦人の生活が人間生活の主體であると信じてゐるものです。家族の幸福を主眼とする、子供の將來を思ふ、云ひかへれば、精神的に且つ未來のために働いてゐる。此の貴い仕事を遂行させるために、いはゞ夫の經濟的の働きは妻の仕事のお手傳ひであるのです。

夫に養つて貰ふのでなく、人類生活に於て、最も重要な仕事に從事してゐる者の當然の權利として、夫に貢をさせるのです。

○

家の都合のために、又、最初の結婚に失敗したゝめにとう〳〵一生孤獨で淋しい生活をして、やがて、老年期に入ろうとしてゐる婦人が「鳥でさへ、虫ケラでさへ、雌雄調和したなごやかな、ゆたかな氣分の生活を送つてゐるのに、なぜ、人間である自分はこんな味氣ない一生を送らなければならないのか？」と述懷してゐるのを私は聞いたことがありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本當に世の中に男と云ふものが無いぢやなし、あつて〳〵有り過ぎて、箒で掃きよせて捨てゝも捨て切れない程、そこらにうぢや〳〵男が居るのに、そのうちの一人をも自分のものにすることが出來ないと云ふのは、何と云ふ不合理な世の中だらうと云ふ考へ方です。

女にとつてばかりではない。男にとつても矢張り同じだらうと思ひます。一定の理想をもつて妻選みをしようとする時には、なか〳〵其の理想に合ふような女性が見つからない。そこで、男の方でも亦世の中に女と云ふものが無いぢやなし、あつて〳〵ありすぎて箒で掃きよせて捨てゝも捨てゝも捨て切れない程そこらに女はモゴ〳〵してゐるのに、なぜ、自分の妻となる女は無いのだらうと思ふに相違ありません。

處で、鳥であるから、虫ケラであるから、そして、何の理想もなやみもないから、ぶつかり次第出逢ひ次第、雌雄が直ぐに喰付いて一つになつて生活が出來るが、人間であるから、靈の力を持つてゐるから、靈の力を持つてゐない鳥のように虫ケラのように容易に異性と合體することが出來ないのだと私は考へます。

つまり、肉體ばかりで生きてゐるのであるならば、その肉體の要求する通りに行つてゐて、其處

に何にも惱みはない。所謂通人とか粹人とか云はれるような人がよく「素人を相手にすると後がめんどうだが黒人ならば賣物買物であるから一切が金ですむのでサッパリしてゐてい丶」と云つてゐるのを聞いたことがありましたが、この黒人と云ふのは肉體のみの存在物として交渉が始まり終るのであるに反して、素人の方は其處に精神的の要素が無ければ交渉は始まらない。黒人を買ふような氣持ちで若い女性に接近して行くような男は所詮嘘の愛でありませうが、併し、少なくとも愛すようなふりでもしなければ女性は應じては行かない。もと／＼嘘であつても本當らしく持ちかけて行く。それを本當だと思つて受け容れる婦人に精神的の愛が目ざめてゐるのは當然でありますからそこで、素人は後がめんどうだと　はれるのです。

これを要するに、下等動物は肉體ばかりで生きてゐるに反して、人間は肉體と精神との二つの方面を持つてゐる。そして、煩悶と云ふのは、下等動物のように、全然肉體にばかりもなりきれないし、又神樣のように全然精神にばかりもなりきれない。中間にぶら下つてゐる狀態を云ふのだ、そして、大部分の人間が其の狀態にあるのだと私は考へて、そして、ニーチエの『現代の人間は動物の狀態から神の狀態に移り行くいはゞ橋のようなものだ』と云ふ言葉を今更のように思ひ起してゐ

ます。

○

肉と靈の中間にぶら下つて煩悶を持つてゐる其の煩悶を取りのぞいてやらう。つまり、人間の精神的方面を無いものとして、肉體にのみ生きさせようとするのが所謂友愛結婚であります。

友愛結婚の提案者リンゼー判事は『友愛結婚法が法律によつて定められるならば多くの青年男女殊に、大學の學生等は皆こう云ふ結婚を斷行するだらう。』と云つて、そして、結婚してゐる學生はしてゐない學生よりも成績が優秀であることを力説してゐます。勿論、學生がカフエーなどを飲み歩いたり、遊び廻つてゐると云ふようなだらしない生活をしてゐるよりも、たとへ、一時的の結婚でも結婚生活をしてゐる方が落ち付いて勉强が出來るかも知れません。

併しながら、性の滿足を得られなければ勉强が出來ないような學生はもと〳〵學問などをする價値のある人間ではないのです。

怠けてゐる學生、乃至、怠けがちな學生に勉强させるために一時的の結婚を許すと云ふことは、これは不良青年男子を標準に若き女性を學生の勉强の犧牲に供するものであります、女性侮辱も甚

しいではありませんか。

青年男女の生活に於ける新らしい自由が相互の誘惑の度を强めました。そして、其の誘惑の力に打ち勝つ精神的力を强くし人間らしい發達を遂げさせようとすることの代りに、その誘惑にすぐに引きずり込まれて人間を動物的にして行こうとするのが此の友愛結婚であります。

要するに、この種類の結婚は一時の快樂のために民族の自殺を招致するものです。なぜなら、友愛結婚は男女の同棲を承諾して家庭と子供を抗みます。つまり、人間の特權は利用するけれども凡ての責任を否定致します。

○

一體、友愛と云ふ言葉は一九二四年五月バナード大學のナイト博士が發明したものでありました。そして、それより六ケ月の後、カークパトリック氏が「此の種類の結婚は一時的の性質のもので、結婚後、それを從來の永續的の結婚にすべきか、又は、離婚すべきかを選擇する自由を當事者に許すべきだ」と云ふことを付け加へたのでした。

それを、合衆國デンヴァー市に於ける少年審判所の主任者であつたリンゼー判事がいろ〳〵の少

年男女に關する事實を基礎として所謂友愛結婚と稱する新らしい制度を提案したのでした。

そこで、私共が忘れてならないことは、リンゼー判事が常に接觸してゐた方面は人生の暗黒面であること、病的な少年男女の生活が彼の考への基礎となつてゐると云ふことであります。多數だとは云つても、併し、全體と比較すれば少數である處の、しかも、病的な不良性を帶びてゐる少年男女を標準として全體の健全な少年男女を律しようとすることは斷じて當を得て居りません。

にも拘らず、それが何にか素晴らしい新らしい發明でゞもあるかのように世間の評判になつてゐると云ふことは、要するに、放縱に利己的になつてゐる現代の靑年男女に迎合したまでゞあります。で、リンゼー判事は、ツイに、少年審判所主任と云ふ位置から追はれることになりましたが、それは、少年男女に性を亂用することは不正だと云ふ意識を持たしむることの代りに、それを奬勵する態度に出たからであります。

友愛結婚の是非の議論が盛んである最中に、一大學生が十八歳の少女と友愛結婚をしました。そして、その少女の兩親が彼女に生活費を送つてゐました。それはピツプローでの出來事でありましたので、其處の三つの大學の學生達は其れに對するそれ〴〵の意見を徴せられました。處が、贊成

者は一人も無かつた。そして、その反對意見の基礎は、そのような不安定な結婚が出來るものではないと云ふ處にあつて、そのうちの一人の意見を擧げて見るならば、「本當に相愛するならば、そんな氣持ちで同棲出來るものではない。結婚生活をしてゐて、妻の生活費を妻の兩親に負擔させるなどゝ云ふことは自尊心のあるものに出來る事ではない。」と云ふのであり又、一人の女學生は「結婚しても妻の生活費を得ることの困難を避けて、妻の兩親に生活費を出させたり、又は、職業に附いて生活費を得よと云ひ、そして、子供があつては不便であるから避姙せよなどゝは何たる薄情な言葉であるだらう。男性の利己主義も此處まで來れば我々女學生は攻撃することさへも潔しとしない。」と憤慨してゐます。

○

友愛結婚は決して青年男女を幸福に導くものではありません。野合と同じく、肉慾にたゞれた、枯ちた土臺の上に築いた家屋のようなもので、堅實性が少しもない。從つて、有益な生活を一生棒にふつてしまうと云ふ危險性があまりに多分です。

故に、リンゼー判事はとう〳〵其の職を奪はれた程、反對意見は烈しく、そして、その反對の要

旨は『リンゼーは第一に家庭の神聖を犯してゐる。第二に、子供を排撃する結婚を奨勵することによつて法律化した私娼の水門を開くようなものだ。第三に、七百人や八百人の青年男女の性的の煩悶を緩和するために全國の男女にさう云ふ結婚をすゝめることは純潔な大多數の青年男女を侮辱するものだ。』と云ふ處にあります。

要するに、人間は大自然の命令に半分從つてゐることは出來ません。『異性を求めよ』と云ふ命令だけを受け容れて『親になれ』と云ふ命令を拒むことは決して人類を幸福に導くものではありません。そして、その親たる責任は男性によりも女性により重くかゝつてゐるものであり、且つ、親になる希望は男性よりも女性がより強く持つてゐるものでありますから、此の友愛結婚によつてより多く苦しめられるのはやはり女性であります。

○

とにかく、『働かざる者は食ふべからず』と云ふことが新時代の各人に對する要求でありますが、食慾に對してはこれだけの責任を各人に要求してゐる時代に、愛慾に對しては全然無責任でいゝと云ふ法はありません。

故に、どの點から考へても、私は、此の友愛結婚には斷じて贊成することは出來ません。

それから、ツイデにもう一つ云つて置きたいことは、贊成者が多數であるから共れが善だと定めることの誤謬であります。

責任を重んずることとの價値は、數百年間人類が戰ひ通して來て、や、う、や、く、贏ち得た有益なたま、も、の、であります。が、リンゼーは此の價値のたまものを無視してゐる。此の一點だけでも、此の著書の有害無價値であることが明らかです。

「リンゼーは言ふ。成熟し切つた多數の男女の未婚者は、燃ゆるやうな性的本能――それは饑餓を除けばあらゆる本能中最も强力なものだ、否、むしろ、饑餓の一種だ――を內に藏しつゝ、配偶者を有しないで、形ばかり淸淨な獨身生活を强ひられてゐるのだ、これが恐ろしい結果を招來するものでないと、誰が斷言出來得やう。

健康や經濟や氣質などの條件によつて、結婚直後に於て子供を扶養し得ざる男女が、戀愛と友情と協力とを目的として行ふ結婚が、友愛結婚だ、それが友愛結婚なのだ。」

と。これが日本語譯『友愛結婚』の諸新聞に出た廣告文でありますが、生理的には成熟しても經濟的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に親となる準備が出來てゐない處に結婚難があるのであるから、避妊をして妻の生活にも責任を持たないで友愛結婚をしろと云ふのでありますが、併し、經濟は人爲であり、姙娠と云ふようなことは天爲であると云ふ處を考へて、先づ、經濟的に精神的に其の準備が出來るように指導者達は努力して、そして、權利はとるが義務は負はないと云ふような偏頗な思想は排して、權利と義務の兩方をすなほに受け容れさせるようにする。つまり、大自然の命令に全部服するようにすることが結局個人の幸福、又、社會の利益であります。

編輯の後

物凄き自然の破壊力に叩き潰された帝都東京が再興して、其の復興祭の日が決定されると同時に、東京聯合婦人會は、復興記念事業の一ツとして、都市の清掃に努力しようと云ふ決議をしました。

復興事業を背負つて立つた人々の努力、其の仕事に直接あづかつた無數の人々の汗を思ふ時、折角完成された此の東京の都市美が、あの無限に捨てられる紙くづや、煙草の吸ひがらやたんつばで汚されて行く無慘な光景を東京聯合婦人會は見るに忍びなかつたのです。つまり婦人清掃除を編成して街頭に進出せしめ、拾てられる紙くづや吸がらをかたツぱじより拾ひ取り、市民の公德心を呼びさまそうとする「市民公德運動」を致しました。

東京聯合婦人會が朝日新聞社と共力して、多方面の多大なる加勢を得て、我が帝都に植へ付けた此の公德と云ふ「復興記念樹」が益々榮へ、繁茂するよう私はひたすらに祈つてゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

哲學者の結婚觀

古今東西を問はず、人類が此の地上に存續する限り、永久に繰り返へされる問題は「結婚は何のためか」と云ふ問題です。そして、近年ドイツの哲學者カイゼリングは、此の結婚なるものに哲學的の基礎をつけました。

彼は、結婚を、第一に一つの訓練と見てゐます。卽ち、結婚當事者は社會の福利、殊に、次代の利益のために、自己を服從せしめなければならない。要するに、結婚は、人のために自分を服從させる敎育の繼續的な過程であるのです幸福と云ふものは此の過程を通してのみ來るものであるのです。

故に、結婚は精神的の訓練と云ふことが其の眞髓であつて、幸福と云ふことは附帶的のものであります。

結婚はより高い人格を、卽ち、親よりは子の子よりは孫の人格を、向上發達させるための宇宙的運動の一つであるのです。故に、結婚は一つのクビキであると考へなければなりません

で、こう云はれて見ると、結婚は其の眞髓に於ては一つの悲劇であります。が、とにかく、結婚の一面にはこう云ふ深刻な使命があることを考へずに、浮いた一面のみを見て、人爲をもつて天命をしりぞけようとする、所謂自由戀愛又は自由結婚の實行者は天に向つてツバをしては、其の悲劇を益々複雜にして行き、より苦しい淵に沈んで行くものと見なければなりません。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

舜一郎君の靈へ

加藤ひさ

噫々舜チヤンは遂に死んだ!! 二十五歳で。花ならば滿開となつた處で花瓣の一ヒラ一ヒラと散るのでなく椿の花の落ちるやうにパタリと落ちてしまつた！

假りの母なるわか氏の優さしい腕に抱かれて舜チヤンの遺骨は火葬場から山田家の茶の間に移された。牧師さんに御願ひするのでもなく坊さんに御願ひするのでもなく、一晩舜一郎の魂を皆でゆつくり慰めてそれから遺骨を葬るのだと云ふわか氏の意見に基ひて、三月三日の晩は周圍の人々數人集まつてしめやかに故人の追憶をしませうと云ふ考へから私は山田家へ行つた

體が弱いために難儀な併し淸らかな短い一生を終つた舜一郎君の遺骨は美しい皆樣の御同情から花を持つて埋められて居た。線香の煙りも立ちのぼつて居た。數人のつもりであつたのが五十人以上の同情ある方達に遺骨は取り卷かれた。山田氏の親友細貝技師は遺族の處を態々御出で下さつて最も貴き御說教をして下さつた。そして讚美歌も歌はれた。讚美歌の御出來になる方々は心から共に御歌ひ下さつた。心からの告別の集りは期せずして出來て降りしきる雨の音を聞き乍ら心ゆく迄靈を慰め得たと思はずには居られなかつた。

壇前には線香の煙りが立つのを見、周圍に讚美歌の聲を聞いた私の娘は「舜ちやんは神樣の處へ行くのか佛樣の處へ行くのか迷ふでせうね」私にきいた。「舜ちやんは直接天國へ行くのだ」と云ふ私の言葉に對して娘は「ほんとうに心からそう信じたでせうか」と問ひかへした。「勿論」と私は力强く答へた。

赤坊がその無限な生活力を以てムク／＼と育ち行く不可思議な力は到底私達の小さい力では考へられない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やうに、生きやうとして全力を注いでもグン／＼と次の世界へ引込んで行く其の力も又私達には到底考へ及ばない。現世に止まる爲に良しと信ずる凡ゆるものを爲しつくした舜チャンはこれはダメと觀念した。その後の態度を立派と云はふか悲壯と云はふか恐らくあれだけの態度をもつて死に得たものが幾人あらう。

× × ×

舜チャンよ！ 安心して天國に行きなさい。あなたの最も敬愛するあなたの母さんは曾て甘い物が食べたいとか、いゝ着物が着たいとか、面白いものを見たいとか思つたことがありませうか。只黙々として夫の爲子供の爲に働いて居るのです。二十五歳迄あなたを養育してあなたに先き立たれる辛さはあつても心からあなたを滿足させて死なせ得た喜びで報ひられて居ます。あなたの母さんは人間としての一つの功を遂げたのです。物質的の成功よりも心の成功はむづかしい。只、その成功不成功は愛の大きさにのみ依るのではないでせうか。舜チャンあなたの母さんはあなたが天國へ行つた留守にもやつぱり他の人達を天國へあなたのやうに滿足して感謝して行かせるやうに努め働いて居ますから。そして私も又遲かれ早かれあなたのやうに滿足して感謝して天國へ行かれるやうに努めませうから

ではサヨウナラ舜チャン！

二十三年丹誠して

學課の方はだめでしたが小學校時代から繪の方が勝れてゐて、中學を卒業してからは油繪の研究所へ通つてゐたのでしたが、二年前から病魔と戰ひ通してゐて今年の正月になつてからいよ／＼戰ひには負けたと舜一郎は觀念してしまいました。

「僕はもう此の世の中に何にも執着はないよ。こんなに弱く生みつけられた體で生きてゐたつて何んにも思ふことは出來ないし、唯、苦しむばかりであること

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

は分りきつてゐる。だから僕はもうさん／＼考へた結果、死んでもいゝと覺悟はしたけれど、唯一ツ困ると思ふのは母さんの氣持ちだよ。弱い僕のために母さんが長い間どんなに心配して呉れたか、かばつて呉れたか、……だのに、僕は母さんのために何一つして上げることが出來ないで死んで行くなんて……母さん、あきらめて呉れない？　母さんがハツキリあきらめるよと云つて呉れゝば僕本當に安心してしまうがなア、さうすれば僕は晴天白日の氣持ちで、いゝ氣持ちで逝かれるんだけ

　と昇一郎は私をくどきました。私は「何事も天意であれば甘んじて受けて來たし、今後も受けて行く私の生活方針」に付て話して聞かせました處が、彼は涙を拂つてニッコリ致しまして、

　「母さん有りがたう！　それで僕はもう安心した。僕が逝つてしまつては母さんが淋しいだらうと思つて母さんの信じる天は僕の代りに坊やを母さんに惠んで呉れた。ね、母さん、坊やを僕の代りだと思つて僕のことはあきらめてお呉れよ。」と叫びました。

　それから何週間かの後でした。病院で「僕は母さんの肖像だけは、魂を打ち込んでかいて置きたいと思つた。けれども、もう、それも出來なくなつた。でも僕は失望はしないよ。僕は天國へ行つてから、此の世でかくのよりもつと／＼立派な母さんの肖像をかくよ。實はね母さん、朝、まだ目がさめきらないで、ウツラ／＼してゐる時には僕はとてもいゝ氣持ちなんだよ。僕はもう天國へ行つてゐるんだ。そこではね、僕はこんな瘦せツぽちの貧弱な體をしてゐないよ。ふとつてピチ／＼してゐて、そして、立派な大理石の宮殿にゐるんだよ。ステキだらう。そこでね、僕は母さんの肖像を畫いてゐるんだ。そして、考へてゐるんだ。「まだ母さんは地上で働いてゐるかな。早く來て呉れるといゝけれど。だが、それを望んぢやいけない。母さんを必要とする人が、まだ此處には澤山居るから。」なんてね。それで、まア、ゆつくり待つとしようと決心してそれにしても、かき上がつて母さんの肖像はどこんとこへかけようかなどゝ工夫してゐるんだよ。そこへ來るのは母さんばかりぢやない。父さんも民チヤンも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こまチャンも伯母さんも姉さんも來る。だけど、坊やはまだ生れたばかりだからなか〳〵來やしない」なんて考へてゐるんだ。本當に樂しい〳〵、いゝ氣持ちでゐるのに看護婦が僕を起すんだ。そして、目がさめると「何んだ、まだ生きてゐやーがらー」と思ふんだよ。」と昇一郎が云ふのに對して、私は「そんなに生命を粗末に考へないでゐてお呉れ。天命ならば甘んじて受けると私は云つたけれど、併し、その前に人爲を充分盡したかどうかを反省すると云ふ仕事がある。あなたはさん〴〵難儀したからもう面倒くさいと思つておゐでだけれど、でも、母さんのために最後の瞬間まで生きるために努力してお呉れ。こないだもよく〳〵話して置いたことだけれど、天意はあなたを死なせる方にあるのか、それとも、もう一度復活させる處にあるのか、小さい頭の私達には分つてゐないのだから。」と頼みました。

「そりや分つてゐます。昨日だつて、母さんが届けてよこした餅菓子ね。とてもうまさうだから、みんな食べようかと思つたけれどね、その時、そこに僕が飾つて置いた母さんの寫眞が僕の方をジーッと見てゐるだろう。あゝ、僕は母さんのために努力すると約束したッけと思ひ直してたつた一ツしか食べなかつた。だけど、母さん、僕がこんな風にしていつまでも生きてゐちや隨分厄介だらう。母さんが困つてしまやアしない？」

「母さんはちッとも困りやしない。成程、こうして度々通つて來るには金もかゝるし暇もつぶれるようなものだけれど、だけど昇チャン考へて見てお呉れ。此處へ來ない時には私がどんなに一生懸命働いてゐるか知つておゐでだわね。隨分あちこちへ行つたり、いろんなことをして居れば、嬉しいこともある、悲しいこともある、口惜しいこともあれば面白いこともある。それをですね、一々此處へ來てあなたに聞いて貰ふと云ふことは私のためには隨分樂しみなのよ。あなたは其の大きな目を輝かして私の話す一言々々をまるで食べてゝもしまうように一生懸命聞いて呉れるでせう。だから、悲しいことはあなたが食べてしまつて呉れるから私の心は樂になるし、嬉しいことはあなたが喜んで呉れるから私の喜びは二倍になつて私の心持ちをゆたかにふくらませて呉れる。ですからね、あなたはこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

うして何にもしないで寢てゐると思つてゐるでだけれど、私のためには心の支へとでも云ふのだらうか、私の心にピッタリ喰ひ入つてゐるあなたの心が私と一緒に働いてゐて呉れることを私はシミ〴〵意識してゐて其れがどんなに私を力強くしてゐるか知れないの。それは此處へ通ふための金や時間を償つて本當に大變餘まりがありますよ。昇ちヤン分つたでせう。あなたは私のためにちッとも厄介ではないと云ふことが。」

「母さん分りました。僕、母さんのために一日でも長く生きるために層一層努力します。」

こう云ふ誓ひの言葉と笑顏で別れたのが二月二十五日午後であつたのに、二月二十八日の午後昇一郎は忽然と天上してしまひました。急變の知らせを受けて走せつけた時には昏睡狀態に陷つてゐたのでした。

主治醫の希望で解剖致しました處腸の内部が全部ケッカクキンに犯されてゐたのでした。

生みの母に死なれて私共の手に彼が來たのは三ッの時でした。「二十三年間も丹誠して」と皆樣がおくやみを云つて下さいます。勿論殘念には相違ありませんが、併し、彼の入院中彼の心が私の心と一緒に働いてゐたと丁度同じ氣持ちで、彼の魂が私の魂に喰ひ入つてゐて、私の魂の力を二倍にしてゐるような力強さを私は今感じてゐます。彼を思つて勿論私は涙を流します。けれども、それは、唯悲しいのではない、唯淋しいのではありません。

それは、丁度、底知れぬ山の地底から沸出し深い清水となつてかすかに流れ出づる泉のように、神秘な世界を思はせ、天國の生活の安らかさ樂しさを感じさせる靜寂な感謝の甘い涙であります。

二十三年間の丹誠が無駄になつたような氣持ちは少しもありません。私の精神生活が昇一郎のために非常に潤されてあることを私は今更ながら驚いてゐます。

（本誌臨時定價表）

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

昭和五年三月廿三日印刷納本
昭和五年四月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人 山田嘉吉

東京市牛込區岩松町五四
印刷人 大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所 婦人と新社會社